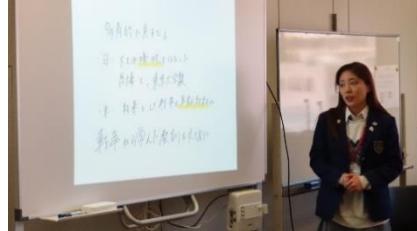


令和7年3月9日（日）《午前》
第13期Bコース研修生 「日本の近現代史②」



令和7年3月9日（日）に第2回「日本の近現代史」の講義を行いました。今回のテーマは、「国際秩序の変化～第一次世界大戦勃発から第二次世界大戦終結まで～」です。研修生は事前課題に取り組み、当日はグループで協議したりグループの協議内容を全体に発表したりして熱心にテーマを深めている様子がうかがえました。

研修生は事前学習として、NHK高校講座日本史「大正デモクラシー」、「新たな国際秩序」、「太平洋戦争」及び「学習動画（日本の近現代史講義担当者が作成）」を視聴し、それらを踏まえて、各自が事前課題に取り組みました。事前課題は、「この時代、日本と北米は相互に関係を深めてきたにもかかわらず、太平洋戦争に至るとともに相互関係に大きな影響を及ぼした。このことについて、留学した際に出会う人々からどのような『問い合わせ』が出されるのか考えよう。また、その『問い合わせ』に対してどのように説明するのか考えよう。」です。研修生はアメリカ合衆国又はカナダへの留学に向け、各々がよく考えた「問い合わせ」を設定し、説明し合っていました。

研修生は4人グループとなり、配布されたiPadを活用して事前課題を発表して協議し、ここでの協議内容を全体の場で発表・協議しました。

研修生の事後アンケートの一部を紹介します。

- ・日本からの視点だけではなく、海外からの見方を知ることができ、多面的な思考が大切だと感じた。
- ・グループでのディスカッションを重ね、歴史を整理し、より深掘りすることができた。
- ・第二次世界大戦の開戦にはいくつものきっかけや条件が重なり合った結果であることがよく分かった。

研修生は事前課題に意欲的に取り組み、熱心に発表や意見交換を行っていました。その姿から、日本と留学先国との関係の歴史を学ぶことの大切さを実感している様子がうかがえました。

令和7年3月9日（日）《午後》
第13期Bコース研修生 「ゼミナール②」



3月9日(日)に第2回ゼミナール研究を行いました。第3回では、第1回ゼミナール研究で行った「研究テーマを考えよう(その3)」を踏まえて、各自が作成した「研究アウトライン(様式1)」をグループで発表し、協議しました。

ゼミナール研究は次のように進められました。次の流れで、発表から協議まで、一人15分ずつ行いました。

- (1) 「研究テーマと研究の目的」「研究仮説」「現状」「課題」について一人ずつ発表する。
- (2) 発表にグループの成員が<問題点・疑問点>を赤の付箋紙に、<優れた点等>を青色の付箋紙に記入する。

(3) 発表者は記入された付箋紙を台紙にまとめ、記入者が説明する。

(4) 発表者は疑問点について答え、グループ全員で改善点等について意見交換する。

今回は、研究仮説についても発表、協議したことで協議内容がより充実したものになりました。例えば、研究仮説は研究テーマ・研究の目的に照らして適切か、研究仮説をどのように立てるとよいか、また、現状や課題の捉え方は十分かなど、時間を十分にとって話し合いました。今後のゼミナール研究の深まりにつながるものになりました。

研修生は今回の協議を通して学んだことを振り返り、「ゼミナール研究振り返りシート」に「発表・協議で学んだこと」「今後の取組」「研究テーマ・副題の見直し・その内容」を記入し、記録として残しました。

真剣に取り組んだ今回の協議を経て、改善した「研究アウトライン(様式1)」を基に、担当するゼミナール担当者と後日、面談を行います。今後、どのように具体的に調査をしていくか、インタビューやアンケートの内容・方法等も含めて検討していきます。